

京都府立総合資料館蔵

【原文】

○泰産寺 北向なり。本尊は観音也

世のことはざに。子やすの塔と云。懐胎

のかたかならず此寺に祈念し安平

なりけるとそ（十ウ）

【校訂本文】

○泰産寺（注1） 北向なり。本尊は観音也。

世の諺（注2）に、子安の塔と云。懐胎の方、必ず此寺に祈念

し、安平（注3）なりけるとぞ。

【注】

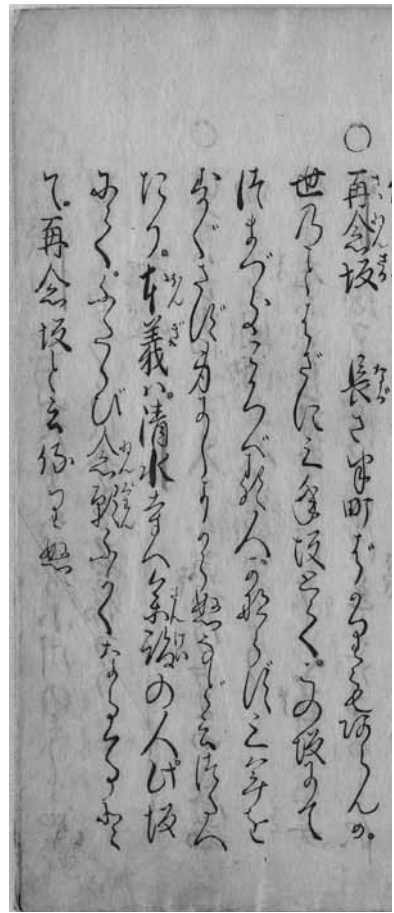
- (1) 清水寺の塔頭。もとは仁王門前にあったが、明治四四年（一九一
一）に本堂南の現在地に移築された。本尊は十一面千手千眼観音
菩薩。境内に子安塔と称される三重塔がある。
- (2) 古くから世間の人々に言い習わされてきたことば。
- (3) 穏やかで容易なこと。

【現代語訳】

○泰産寺 北向きに建っています。本尊は観音です。

世間の言い習わしでは、子安の塔と呼ばれています。妊婦は必ずこの
寺に祈念して安産だということですよ。

（藤原英城）



京都府立総合資料館蔵

【校訂本文】

○再念坂 長さ半町(注1)ばかりもあらんか。世の諺(注2)に三年坂とて、この坂にて躓き転る人、必ず三年を過ぎず身にし(注3)良からぬなど云伝へたり。本義は、清水寺へ参詣の人、此坂にて再び念願深くなる事とて、再念坂と云侍りぬ。

【注】

- (1) 長さの単位。半町は約五五メートル。
- (2) 「泰座寺」の(注2) 参照。
- (3) 「し」は強意の助詞。

【原文】

○再念坂 長さ半町ばかりもあらんか。
世のことはぎに三年坂とて。この坂にてつまづきころべる人。かならず三年をすぐさず身にしよからぬなど云つたへたり。本義は、清水寺へ参詣の人。此坂にて。ふたゝび念願ふかくなる事とて。再念坂と云侍りぬ(十一才)

【現代語訳】

○再念坂
坂の長さは半町(約五五メートル)ほどありませんか。世間の言い習わしでは、三年坂と呼んで、この坂で躓いて転んだ人は必ず三年以内にわが身に良くないことがあるなどと言ひ伝えていきます。本来の意味は、清水寺へ参詣する人がこの坂で再び念願の気持ちが高くなるということ、再念坂(再び念願する坂)と言うのです。

(藤原英城)